

## 2023年度 小委員会活動成果報告

(2024年1月30日作成)

小委員会名	湿気小委員会		主査名：高田 暁 就任年月：2023年4月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (熱環境運営委員会)		委員長名：大岡龍三 主査名：都築和代
設置期間	2023年4月 ～ 2025年3月		
設置目的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>多くの建物において湿度に由来する問題（湿害）が発生しており、その対策が喫緊の課題となっている。さらに湿度の人体への影響も明らかになってきており、健康な環境を構築する上でも湿気研究を発展させる必要がある。これまでの湿気小委員会における研究活動の成果を継承するとともに、近年新たに問題となっている種々の課題解決へ向けて、研究の進展を図る。また、研究動向を把握し、社会情勢に応じた学術的立場を堅持した研究課題の提起、若手研究者への啓発活動を推進する。具体的目標を次の3項目とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>WGを中心に未解決重要テーマについて検討する。</li> <li>今後の湿気研究を見据えて「熱シンポジウム」の開催に向けての検討を行う。</li> <li>これまでの研究成果に基づき、学会規準の刊行を目指す。加えて、これまでに刊行した学会規準に研究成果を反映させることを目指す。</li> </ol> <p>初年度：WGを中心に未解決事項のテーマについて検討。次年度開催の「熱シンポジウム」（湿気）の内容を検討。 2年度：熱シンポジウムの実施。未解決テーマについて検討。</p>		
委員構成 (委員名（所属）)	委員公募の有無：無		
	主査：高田暁（神戸大学） 幹事：宇野朋子（武庫川女子大学） 委員：青木哲（岐阜工業高等専門学校）、安福勝（近畿大学）、伊庭千恵美（京都大学）、岩前篤（近畿大学）、小椋大輔（京都大学）、尾崎明仁（九州大学）、岸本嘉彦（大阪公立大学）、権藤尚（鹿島建設）、齋藤宏昭（足利大学）、本間義規（国立保健医療科学院）、松岡大介（ものづくり大学）		
設置WG (WG名：目的)	<p>以下の8つのWGが設置されている。それぞれ、年間2～6回程度開催。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>文化財の保存と活用のための熱湿気環境解WG：文化財保護の温湿度環境の整理を行う。</li> <li>湿気環境と健康WG：湿気環境が人体の健康に与える影響を明確にする。</li> <li>地域特性に応じた吸放湿性能の有効利用および評価手法WG：吸放湿材の評価手法や予測手法の構築を行う。</li> <li>建築全体の温湿度環境性能WG：建築全体の温湿度変動を予測評価する方法の検討を行う。</li> <li>蒸暑地域における建物の湿害実態調査WG：蒸暑地域の住宅の湿害実態を明らかにする。</li> <li>壁面降雨量マップWG：壁面降雨量の計算手法確立と国内の壁面降雨量マップを作成する。</li> <li>熱湿気計算と物性値WG：数値計算の目的に応じた所要の精度、基礎方程式の精度担保、物性値のあり方の検討を行う。</li> <li>熱湿気物性の可変性・異方性による壁体耐久性への影響評価WG：条件により物性が変化する材料が壁体の長期耐久性に及ぼす影響を検討する。</li> </ol>		
2023年度予算	200,000円	ホームページ公開の有無：無 委員会HPアドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	5回（年度内計画を含む）

刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小委員会の中で各WGからの活動成果を持ちより、湿気の未解決重要テーマを検討した。</li> <li>2. 湿気研究の方向性を踏まえ、2024年度に開催を予定している第53回「熱シンポジウム」の全体テーマを「未来に向けた湿気研究」と決定し、プログラム案を検討した。</li> <li>3. 学会基準の策定や見直しについて定期的に議論した。「日本建築学会環境基準 AIJES-H0001-2020 湿気物性に関する測定規準・同解説」の改定は見送ることとした。</li> <li>4. 「建築材料の熱・空気・湿気物性値」の再出版を検討した。</li> </ol>
委員会活動の問題点 ・課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 湿気研究の普及や研究の発展につながる出版物の整理を進めたい。</li> <li>2. 若手研究者への啓発活動の推進が課題である。</li> </ol>

\*中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

2023年度 小委員会活動 自己評価  
(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A B C D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<ul style="list-style-type: none"><li>各 WG からの話題提供を基盤として、湿気研究の大局をとらえるべく、活発な意見交換・議論を行った。</li><li>2024 年度に開催を予定している第 53 回「熱シンポジウム」に向けて、湿気研究の課題を議論し、プログラム案を検討した。全体テーマを「未来に向けた湿気研究」とし、湿気研究の展望を示すとともに、湿気が関連する実務的な課題への取り組みを議論する方向性を採択している。</li><li>若手研究者や大学院生の啓発の取り組みについて継続的に議論を行い、その一環として、熱シンポジウムでの若手による研究発表を企画することにした。</li><li>湿気研究の普及や研究の発展につながる出版物について検討を行い、絶版となっている「建築材料の熱・空気・湿気物性値」のデジタルデータの公開に向けて準備を進めた（2024 年度中に公開の予定である）。</li><li>オンラインで会議が定着し、委員の出席率が向上した。</li></ul>

●総合評価は 4 段階 (A>B>C>D) にて、自己評価すること。

●中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。

A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度

B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度

C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度

D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度

●小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。

●提出対象年：設置期間 4 年の場合は、2 年目「中間年度評価」、4 年目「最終年度評価」（1 年目・3 年目不要）

設置期間 3 年の場合は、2 年目「中間年度評価」、3 年目「最終年度評価」（1 年目不要）

設置期間 2 年の場合は、1 年目「中間年度評価」、2 年目「最終年度評価」

設置期間 1 年の場合は、1 年目「最終年度評価」